

# 他WG共有及び第一回学業充実WGの振り返り

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会  
第2回学業充実WG

2017年11月13日(月)09時～12時

# 安全安心WG(第1回)の共有

# 第1回安全安心WG(2017/10/11開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリート・指導者が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと

## ■ 事故や怪我のデータの集計・分析

- ✓ 大学スポーツの事故・怪我に関する統計がないことが課題。スポーツ安全保険の大学生に関するデータでも、事故の発生原因(運動部活動中のものか、それ以外か)は不明
- ✓ 突然死などの重大事故のデータが重要であるが、頻度が低いため各大学が連携し集約することが必要

## ■ 責任の所在の明確化、事故や怪我の報告・共有の促進

- ✓ 課外活動であることに起因し、事故が起きたときの責任の所在が分からない  
また、部活動側の責任問題となり試合に出場できなくなるような事態を恐れ、事故を隠そうとするインセンティブが働き、事故の情報が報告・共有されない
- ✓ 事故の情報を報告させるため、保険金がしっかり給付される点や大学側として訴訟対策となるといったメリットの検討が必要である
- ✓ 好事例と事故多発事例を出して、実態調査をした上で議論を進めていく必要がある
- ✓ トップアスリートを目指す部活動とそうでない部活動の区分けをした上での検討が必要である

## ■ 指導者

- ✓ 指導者の安全に対する意識が低いことが課題である

## ■ 日本版NCAAに期待される機能

- ✓ 日本版NCAAに期待されるのはドクターやトレーナーの配置に関しての提言
- ✓ 熱中症や落雷などどんな競技でも起こりやすい問題への対処方法を纏めたハンドブック・ガイドラインを、日本版NCAAで作成し、配布することも有用

## ■ 保険

- ✓ アメフトは危険なスポーツであるため保険料が高いといった種目別に保険料が異なる状況が生じている。全競技一体的な保険とすることを旨とした検討が必要である

# 第1回安全安心WG(2017/10/11開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリート・指導者が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと

## ■ 日本版NCAAへの期待

- ✓ 日本では大学スポーツが課外活動であり、大学により管理・支援が難しいことが問題の根本。学生の安全は大学が管理することが本質であり、大学(学長等)が自分達の学生の命に責任を持つことがもっとも根本的かつ重要な要素。大学が一義的に責任を持ち、その集合体がNCAAという関係があるべき関係である
- ✓ 問題の根本への対処をしないまま個別の議論を進めてしまうと、部分最適になってしまう。トレーナーを雇用するのも、施設・設備を改善するのも大学側の負担増となり、大学側としてそれに見合うメリットを認識することは難しいのではないかと思われる
- ✓ 大学部活動を活性化させる上で、学生の安全確保のための取組を支援する組織として日本版NCAAを組成するので参加すべき、と呼びかければ、加盟による負担が大きくなければ、大学(学長等)の賛同は得られるのではないか。具体的な対策は大学ごとにできることが異なっても、対策の指針を提示することで学内の取組が良くなっていくことが期待できる
- ✓ ベンチマークとして米国の安全基準を当てはめた場合に、日本ではどれだけのスタッフが必要となり、どれだけのコストが掛かる、といった地に足のついた検討を、マネジメントWGと併行して実施していく必要がある

# マネジメントWG(第1回)の共有

# 第1回マネジメントWG(2017/10/23開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

## 【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

### ■ 日本版NCAAの想定課題

- ✓ 日本の大学スポーツはピラミッド構造となっており、上手いところと上手くないところ、その中間がある。それぞれのポジションにある大学に対して日本版NCAAがどういうメリットを出せるのかという議論が必要
- ✓ 会計面において、大学の運動部活動がアカウンタビリティを果たせるよう、日本版NCAAで報告用のひな型を整備できると良い
- ✓ 「国際競技力の向上」という観点で大学スポーツにどういう役割を求めていくかという大きなテーマがある。統括団体としての日本版NCAAが広く薄く様々な支援をしていくことは学生にとっては良いことでもある反面、(トップアスリートへの重点的な支援が薄まることで)国際レベルの学生の輩出を弱めてしまうことにならないかという懸念がある

### ■ 日本版NCAAを活用した大学の価値向上

- ✓ 日本版NCAAがプラットフォームとして、大学生としてのあるべき姿を色々な形で共有し、横展開する機能を提供することで、日本の大学でアスリートをやることの価値を向上させていくことができる
- ✓ 大学にアリーナ・スタジアムを作り、そこに学生が集まり、応援できるような場になれば、学生のためにもなるし、大学のブランド力の向上にも繋がる。作るには当然お金がかかるが、資金面も含め日本版NCAAが支援することはできないか
- ✓ 地域や地域活性化等のブランディング。大学スポーツを上手く地域活性にも絡めていくような形を考えていくとよい

# 第1回マネジメントWG(2017/10/23開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

## 【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

### ■ 日本版NCAAがあるべき役割・機能を果たしながら、自立的運営を行っていくための活動資金の獲得手段

- ✓ 学生アスリートをまとめ一定規模の会員データとなればそれを使ったビジネス展開を望む企業が出てくる。組織化したら大きな武器となると思うが、どこまでできるのかという体系を整理する必要がある
- ✓ アスリートに関する様々なデータを集めることで、その属性に応じた怪我の予防・治療法やトレーニング方法などが生まれてくる。トレーニング機器やヘルスケア部門の開発、食品・サプリの効果・効能を調べるなど色々な発展可能性がある。但し、個人情報について、こういった形で同意をとり、研究計画を作り、知財などをどう取り扱っていくかという制度設計をしっかりと行うことが必須
- ✓ 加盟大学の学生アスリートを使った研究などの調査を共同で行うようなスポンサーシップの取り方も考えられる

### ■ 大学とOB・OGとのハブとしての可能性

- ✓ 現在の日本の大学スポーツは、大学とOB・OGとの関係性のポテンシャルが十分に活かされていない。卒業後に関係性が維持できず、自分の母校が今何をやっているかを知らないケースが多い。関係性を繋ぐパイプやメディアがあれば、OB・OGからの応援したいという流れが起きてくるのが期待される。大学スポーツをきっかけにOB・OGからの物理的な寄付や有能なOB・OGのビジネスパーソンからのナレッジによる支援を得られる可能性もあるのではないか

# 学業充実WG(第1回)の共有

# 第1回学業充実WG(2017/10/13開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

## 【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

### ■ 検討の進め方

- ✓ 学業とスポーツの両立を考える学生とスポーツ中心の学生がいるため、それぞれ異なったアプローチが必要
- ✓ 周りの環境、指導者、競技団体(学連)、学生の保護者などについても日本版NCAAがどのように取りまとめて利害調整を行っていくかの検討が必要
- ✓ 認識の違いや大学の機能の違い(体育系の大学かどうか)なども考えて、基盤づくりを行っていくことが必要

### ■ 学生が学業を修める権利の確保

- ✓ 練習時間の制限や平日の試合開催の回避が課題。個別の大学では対処が難しいが、日本版NCAAができればうまくマネジメントしていくことが可能ではないか
- ✓ 入学の時に、一定程度の教育を行うことを大学が責任をもつというメッセージを出すことが必要
- ✓ 統一的な指導要領を用いて、現場の指導者に睨みをきかせる機能を日本版NCAAは有するのではないか。一方、学校によって方向性や特徴が異なるため、統一的な学業の成績を定めるのは難しいとの意見も

### ■ 学業とスポーツの両立

- ✓ 「全国アスリート試験」などを実施してクリアした人だけが、NCAAに入れるようにするという提案もある
- ✓ 学生が地域貢献を行う取り組みや、社会で活躍する人の話を聞くなどの教養プログラムの設定が望ましい。単独の大学では実現が難しいため、統括的な組織があるといい
- ✓ 大学の自治と主体性を重視してきたが、重視と放任は異なり、学生の自主性を確保するための時期がきている。非社会的な行為や平日授業を欠席することが学生アスリートに生じており、NCAAはそのような現状を変えていける

### ■ 大学コミュニティの一体化

- ✓ スポーツ推薦で入学してきた学生が一般学生と交わらないまま卒業し、社会人になっても実業団に入ってしまうため、一般学生は応援する気も起きないことがある
- ✓ 競技以外の授業を通じて、横のつながり(友人)でき、キャリア支援を通じて縦のつながりができる。縦と横の支援をNCAAができることが重要

# 第1回学業充実WG(2017/10/13開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

## 【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

### ■ 学生アスリートの就職

- ✓ 売り手市場であるが、バブルの頃とは体育会のプレミアムが違い、今は落ちてきている。理由は求められる人物像が変わってきており、以前は「会社人」、今は「社会人」\*が求められるため
- ✓ 各大学でスキルを育むのは難しいため、NCAAで大学横断的にリアルキャリアを作っていくことが必要

### ■ 大学部活動と大学の関係

- ✓ 課外の活動であるため自治体組織にはなっているが、ほぼ大学側が援助をしているため、お金の動きも大学側が中心となっている
- ✓ 100%保険の加入が義務付けられていることは大学側としてすべてチェックをする
- ✓ 学内にトレーナー組織があり、ここには学生が将来トレーナーを目指したいとか、医学的な知識を持った中で対応、応急処置ができるという、将来APの資格を取りたいという学生の組織が、各クラブに張り付く仕組みになっているため、救急時も初期的な対応を適切に実施できる体制となっている

全体で討議された内容は、下記4つの観点に集約されると考えられる

#### 部活動と学修機会が重なる傾向

- 講義と練習・試合の重複
- 長期遠征や長時間の練習による学修機会の担保が困難

#### 競技優先傾向

- 入学時から競技優先思考の学生が多く、関係者も当該状況を許す傾向がある
- 競技指導者の中には学修を軽視する人も存在する

#### 社会の求める人材の変化

- 主体的かつリーダーシップを発揮して業務に従事する人物が望まれる傾向にある
- 企業は学生アスリートに上記素養が備わっているという認識が低い

#### 大学コミュニティ愛校心の欠如

- 入学制度、キャンパス、在学中の過ごし方等が学生アスリートと他学生と異なるため応援するという文化が生じにくい

\*会社人から社会人へ求められる人物像が変化しているとは、これまでよりも主体的に課題を捉え、リーダーシップを発揮して解決していく人物像が望まれるという意味。